

建築設計製図/第三第2課題

Junior Studio Work: III-2

今「発信する」ための建築

@表参道

Architecture for "posting" @Omotesando

- 出題者
神谷秀樹
[非常勤講師、竹中工務店]
横山 浩一
[建築設計事務所]
金谷 浩一
[建築設計事務所]
山田 浩一
[建築設計事務所]
- 出題者
山田 浩一
[教授]
村田 浩一
[准教授]
梅崎 浩一
[准教授]
- ゲスト・アドバイザー
秋田 浩一
[早稲田大学芸術学校教授]
鈴木 浩一
[竹中工務店]

- TA
香月 浩一
[准教授]
藤本 浩一
[准教授]
河合 浩一
[准教授]
中村 浩一
[准教授]

敷地条件

- 計画地
商業地区、防火地区
敷地面積
約3,000m²
容積率
500%
建ぺ率
100%
建高高さ
30m 道路斜線及び隣地斜線はなし

課題条件

- 1 用途「発信する」ための施設を提案する。発信する「もの」を「見る」施設が併設されることが望ましい。
- 2 コンセプトをキーワードを抽出し、それを表裏する空間を、最小で30mスパン程度の架構を持つ空間とするか、架構形式そのものの提案(キャンディエー、吊橋など)を行うこと。

提出物

- 平面図(1/200) 立面図(1/200) 断面図(1/200) 配置図、短計図(1/50)、模型(1/200)、大空間の構造模型(1/100)



課題主旨 人間と環境との間に直接のつながりがなくとも、新しいインターフェイスがあれば、十分リアルを感じることが出来る現代において、なぜ人は街に出て、歩く人々は何にリアルを感じているのか。新しいインターフェイスが醸し出すリアルと都市はどのように重なるのか。本課題は、表参道がもつ都市の魅力的な文脈、発信するための実空間の双方のあり方、また技術と建築との関係性を考え、空間化するかの目的である。常に新たなモードを発信し続けている表参道で、都市の文脈や技術(構造、環境技術など)を基に、何を「発信する」のかを設定し、そのための人が集まるための大空間を創造してほしい。

ASSIGNMENT Today new digital interfaces give us real feeling and experience, however, people still go out to the city. What makes them to do? For what do they feel as "real"? The objective of this studio is to consider the relationship this "real" and actual urban space. Students should propose a large span space for "posting" in Omotesando, considering three points as follow; the things people send, urban context of Omotesando, structural and environmental technology.

総評1 SNSで繋がってれば、ばらばらな所に居ながらも集合感覚を共有してしまう昨今でも、敢えて多くの人を物理的に集めるために何を発信すべきか、から考えてもらいたかった。「コンテナボラ」は反時代的である(ロマンチック)ので、時代性の交差点で新たな意味を構築する(アレクサンドロミュー)為に、今、SNS等て実感しているリアルを、建築という実態としてのリアルに変換する事も、その一つの解と成り得るのではないかと。多くは最新モードを発信している表参道に引きずられ、ファッションなどを発信することを選択し、全てをぶら下げて見上げる(芸術家)、ヴィンテージを垂てて貫通する(小食家)など、どう発信するかに対して新しい空間が創造できた案もあったが、何を発信するかという点への問題提起が弱い案が多かったと言わざるを得ない。その中で、表参道へ水族館(木下家)という異物を挿入する、様々な発信に可能にするために建築を動かす(花田家)などは、何を発信するかに対して明確な強い回答になっていたと思う。また、アンジュレーションに隠れたり現れたり(斎藤家)、色々な方向に空間が緩く繋がったり切られたりしている空間(斎藤家)は、強く何か発信することを取って避けたとしても、多人数の他人とツイート、リツイートするかの様に、来訪した人々自身も発信し関係性を創造しようとしている空間を成立させている点で秀逸だった。東工大の建築学科は、創造する建築と共に、建築たらしめている言説を常に提起し続けている。その為には常日頃の建築を思考し続けることが重要です。皆さんの成長を楽しみにしています。 [神谷秀樹]

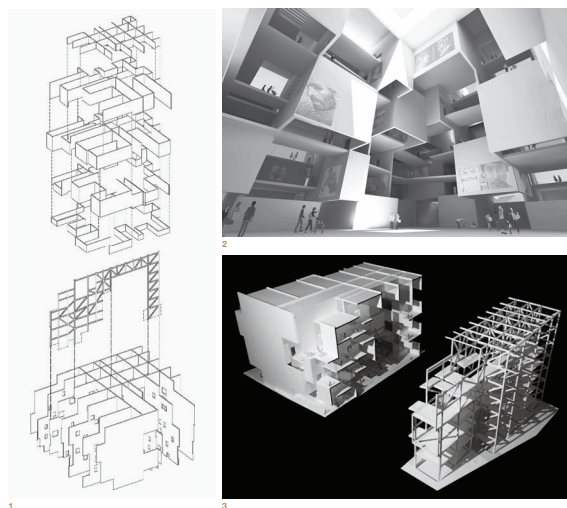
総評2 この課題では建築のコンセプトを現実的に構築していくために具体の構造計画の提案も求めていることが特徴となっています。本年は「発信する」というキーワードを大空間、架構形式の提案を結びつけることがテーマとなり、建物に要求される機能や規模の自由度が大きく、さまざまな構造形式の提案がありました。構造としての取り組みを大別すると、最上階に大空間を配置して屋根の構造を工夫するものと、建物全体の構造形式を工夫して内部に大空間を取り込むものと二つがありました。前者の考えによる案には、ドーム、アーチ、折板構造、テンション構造というように多様な構造による作品が見られましたが、大空間の構造を作ったに留まった案も見受けられ少々残念でした。そんな中で、単に大架構の屋根を作るだけでは不十分な構造形式に工夫を加え、ユニークな建築を提案した案が評価を得ました。木下家、花田家はこのタイプに属するものですが、いずれも大胆な構造の提案が建築をユニークなものとしています。一方、後者の建物全体の構成によって大空間を作る手法は建築デザインとの整合を取ることが必要となります。長島家は斜めフレームの組合せによるものですが、構造体の密度を変えることにより必要な箇所にラスを形成させるといふ案、清藤家は壁を集積した様々な形状の架構を2方向に配して大空間を内包するといふ案で、どちらも構造として工夫したことが独創的な点です。この他にも魅力的な案が多数ありました。この課題を通じて構造的な思考から建築を考えていくというアプローチが実感できたとすれば幸いです。 [金谷浩一]

建築設計製図 第三 第2課題 Junior Studio Work: III-2 今「発信する」ための建築の表参道 Architecture for "posting" @Omotesando

表参道を紐解く

清藤大輝

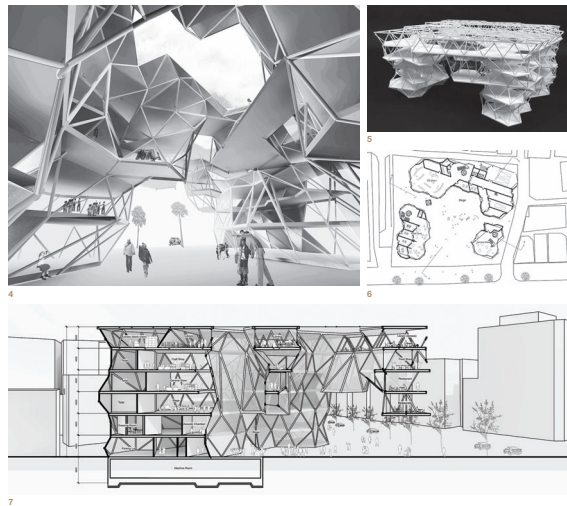
Hiroki Kiyoto



cave

長島 清美

Megumi NAGASHIMA

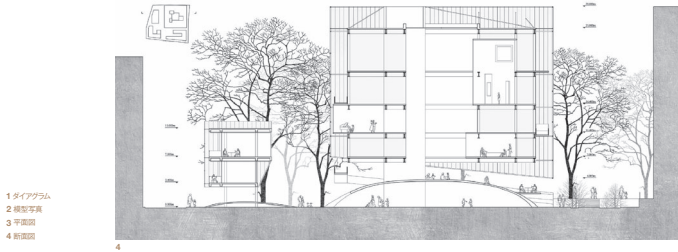
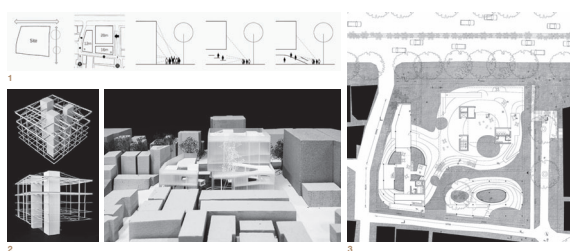


建築設計製図 第三 第2課題 Junior Studio Work: III-2 今「発信する」ための建築の表参道 Architecture for "posting" @Omotesando

Today's Special

高小道

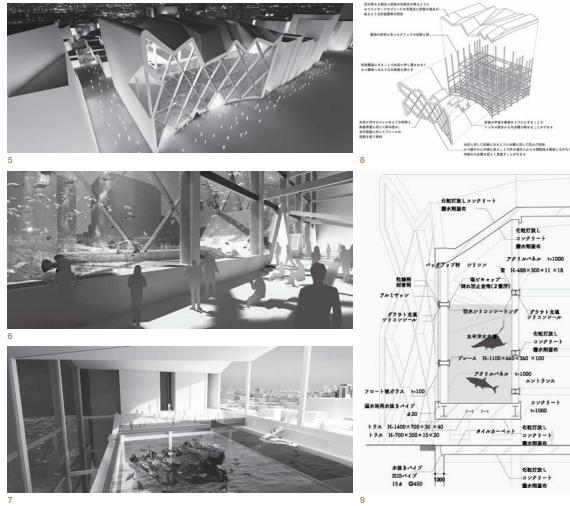
Gao Xiaozhan



DIVE

木下 雄貴

Yuki Kinoshita

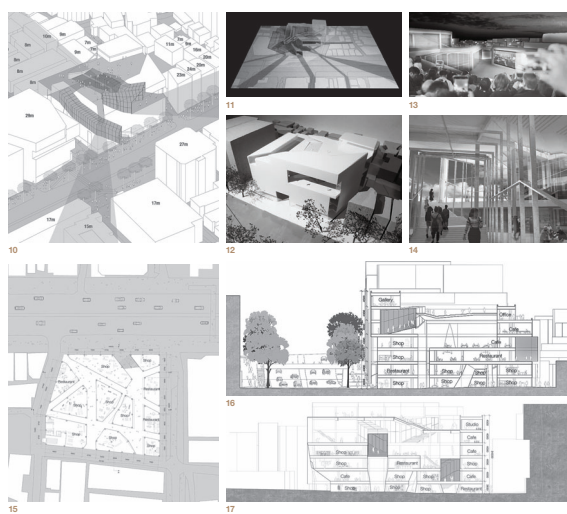


建築設計製図 第三 第2課題 Junior Studio Work: III-2 今「発信する」ための建築の表参道 Architecture for "posting" @Omotesando

街の往還

小倉 宏志郎

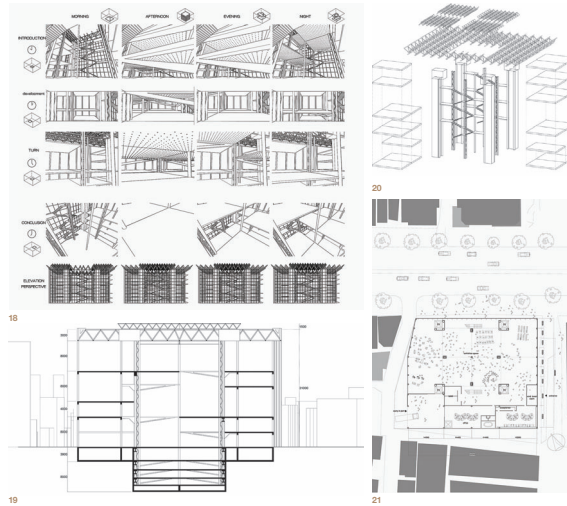
Koshiro Ogura



DIGEST

花田 晶

Aki Hanada



建築設計製図/第三

第1課題

Junior Studio Work: III-1

都市の密度と速度に 呼応する建築： 300人実験劇場を含んだ 第2ヒカリデパート

Architecture responding to density and speed
in the city: 2nd Hikari Department Store with
an experimental theater for 300 audiences

- 出題者・担当教員
奥山信一〔教授〕
村田淳〔准教授〕
塩崎太伸〔准教授〕
- 構造計算指導
金箱温寿
〔連携教授、
金箱構造設計事務所〕
- グラフィティーク
梶田秀樹
〔非常勤講師、竹中工務店〕
- TA
香月夢〔准教員〕
藤本香子〔DS〕
菅田知雄〔M2〕
塩澤雄士郎〔M1〕

課題主旨 自由が丘駅正面改札口前のロータリー広場は、地域コミュニティバスやタクシーなど駅利用者の交通サービスとして重要な都市空間であると同時に、駅方向を除く三方を商業施設が密集し、かつ北から南へ緩やかな勾配をもつといった地形的特徴によって、人々と建物をダイナミックな密度と速度によって関係付ける都市空間の特徴をもっている。数年前に、このロータリー広場の修景整備が終了し、人々が佇むことのできる設えも施され、上記の都市空間性格の可能性が拡張された。本課題では、ロータリー広場西側に現存する店舗群一帯を再開発し、この広場と呼応する複合建築(300人実験劇場を含んだ第2ヒカリデパート)を構想および設計する。また、その建築を的確かつ魅力的な表現(断面および模型)で定着してほしい。

ASSIGNMENT Jiyugaoka Station square is not only an important traffic place for local people but also has some spatial characters such as density of surrounding buildings and gently sloping terrain. Therefore, this plaza is specific urban space which relates people to architecture with its dynamic density and speed. Few years ago, the maintenance work of this square had been completed, after that, its possibility of urban space character is expanded. In this studio, students should design a complex facility including an experimental theater and existing stores, considering the relationship with this square locating the eastside.



総評1「住みたい街ランキング」常連の自由が丘。そんなお洒落な駅の駅前広場に面して、300人規模という新参者の大スケールの劇場と、既存のコンテクストを踏襲する小規模な店舗群との複合建築が求められた。キャンパスからは近いこの街の慣れた風景を都市空間的な観点から見つめ直し、どのようにデザインへと変換するか。観察と構想の力が問われる課題である。上層の大空間を賛美するかのように透明なタワーが屹立する[原部]、トラス構造の工夫を織り交ぜながら家型が様々な変形し建物の全体も部分もつくる[吉行]、デッキや植栽といった小さな居場所をファサードにばらまく[アダム]といった案には、雑居ビルや瀟灑な邸宅、緑道といったこの街のありきたりな風景からのユニークな変奏がみとれる。湾曲する屋根と垂直の壁が立体的な小街区を内包し林立する[長島]、大小のスキップフロアが大きな螺旋を描くように上昇する[中沢]、傾斜した床が縦横無尽にダイナミックに積層する[木村]といった案には、小路や隙間、傾斜地を練り歩く街の楽しさがわくわく大胆に形態へと落とし込まれている。これらをはじめ、この街の魅力のエッセンスを喚起する興味深い提案が散見された。〔村田源〕

総評2 身近で慣れ親しんだ場所だけに、この建物とかなる物、つくりなおす事とつくりかえる事など、各々で迷いながら取り組んでいたと思う。岸澤案と吉行案は、かたちの特徴はまったく異なるけれど、都市に対して自律的な「ヴァリオン」型の建築を置く案である。それぞれに人々を呼び込みそうな特徴のある空間であり、低層部や高層部のつくりに関して、人の集う駅前広場・大通りの多い小道への対応を考慮しているものの、自由が丘の街のスケールと建物のスケールの関係がこれによって、か、建築の体験が街の体験と対応しているのが気になった。それについて中沢案と長島案は、自由が丘の街をそぞろ歩く雰囲気や、らせん状に折りたたまれた小道・分散配置された建物の隙間という建築的なウォークラリーに担わせようとしたものである。ともに、新しく挿入した小道の空間のイメージをもと影を差させ、空間のかたち・スケール・構成・素材・開口部の配置などへの表現に展開されたらよかったと思う。アダム案と木下案は上記ふたつの方向性の中間的なものとして読むことができそうである。部分のスケールが建築全体の形式の強さを支えている。街の体験との出会いがもっとも低い低層部の設計の密度が、両案とも十分に高いと感じた。〔塩崎太伸〕

敷地条件	
計画地	東京都目黒区自由が丘
敷地面積	約1,400m ²
法定容積率	600%
法定建ぺ率	100%
建築規模	現行法規に沿った計画とする

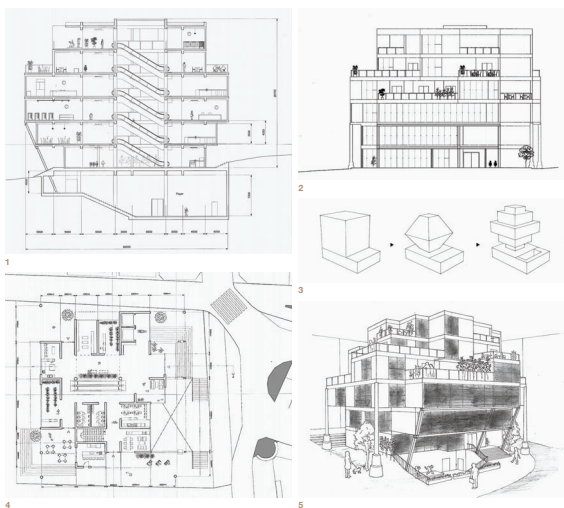
- 課題条件
- 1 既存店舗を全て含むこと
- 2 追加機能として以下の用途を含めること
① 小規模店舗群(バー、カフェ、居酒屋、フレンチなど、1店舗の床面積は約30m²、現存するカリテアートを参照し、床面積ととの対応の中で店舗数を設定すること
② 300人程度を収容する実験劇場(劇場に付随する所室は各自で検討し、設定すること)
- 3 その他、各自の設計コンセプトを強化する上で必要と思われる用途を追加しても良い

- 提出物
- 1 階平面図(実尺配置) 1/1000 各階平面図(1/2000 or 1/3000) 立面図(1/2000、ロータリー側を中央、東側を左側) 断面図(1/2000、東西方向、南北方向それぞれ1箇所) その他各自で必要と判断した図面(模型1/1000) 設計意図(バー・ス/内観、内観それぞれ1枚ずつ)

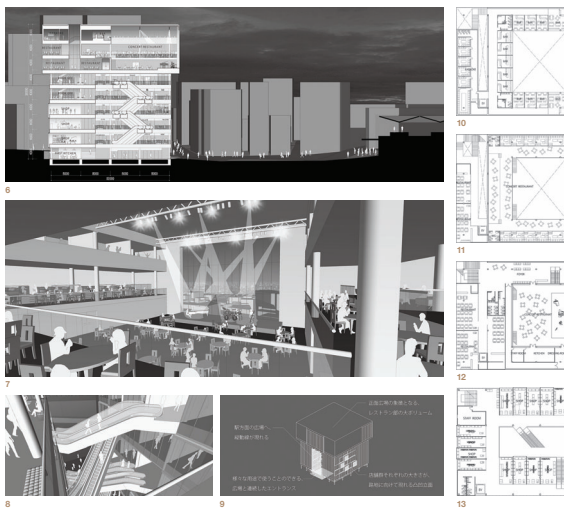


建築設計製図 第三 第1課題 Junior Studio Work: III-1——都市の密度と速度に呼応する建築 Architecture responding to density and speed in the city

THE LIFE'S FACADE アブドル ワフ Wafar ABDUL

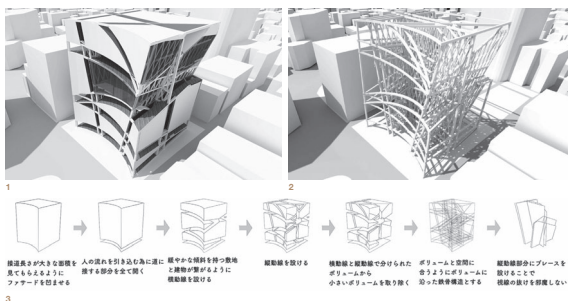


ハイカラスクエア 岸澤竜之介 Ryunosuke KISHIZAWA

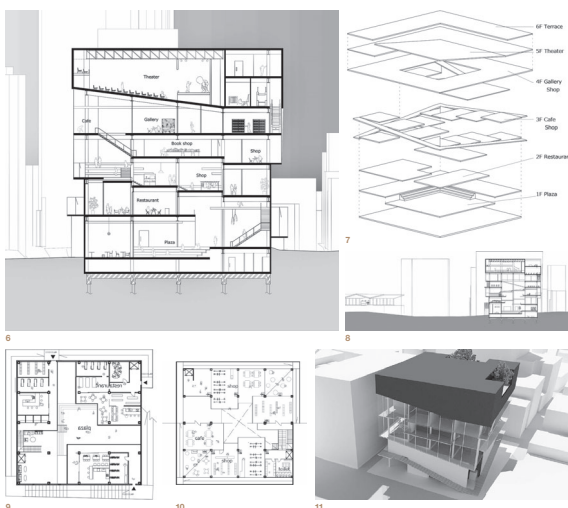


建築設計製図 第三 第1課題 Junior Studio Work: III-1——都市の密度と速度に呼応する建築 Architecture responding to density and speed in the city

Hologram 木下雄貴 Yuki KINOSHITA

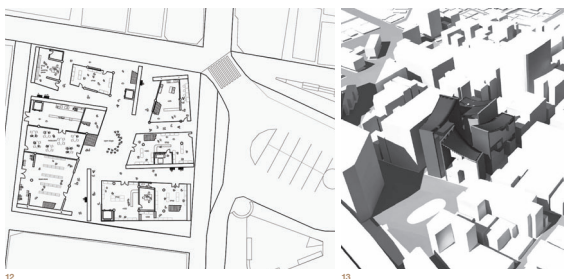


Two side spiral 中沢忠雄 Shuka NAKAZAWA



建築設計製図 第三 第1課題 Junior Studio Work: III-1——都市の密度と速度に呼応する建築 Architecture responding to density and speed in the city

TOURBILLON 長島潤美 Megumi NAGASHIMA



JIYUGAOKA HOUSE TREE 吉行素津美 Natsumi YOSHIYUKI

